



## 2023年12月期 第3四半期決算短信(日本基準)(非連結)

2023年11月9日

上場会社名 スターツ出版株式会社  
コード番号 7849 URL <https://starts-pub.jp/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 菊地 修一

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役管理部長 (氏名) 金子 弘

TEL 03-6202-0311

四半期報告書提出予定日 2023年11月10日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2023年12月期第3四半期の業績(2023年1月1日～2023年9月30日)

#### (1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年12月期第3四半期	6,053	23.5	1,686	54.4	1,765	48.2	1,316	78.9
2022年12月期第3四半期	4,901	26.8	1,092	116.2	1,191	98.0	736	102.2

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年12月期第3四半期	342.98	
2022年12月期第3四半期	191.71	

当社は、2023年1月1日付で普通株式1株につき2株の割合をもって株式分割を行っております。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期純利益を算定しております。

#### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年12月期第3四半期	9,510	7,684	80.8	2,001.43
2022年12月期	8,554	6,389	74.7	1,664.17

(参考)自己資本 2023年12月期第3四半期 7,684百万円 2022年12月期 6,389百万円

当社は、2023年1月1日付で普通株式1株につき2株の割合をもって株式分割を行っております。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり純資産を算定しております。

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年12月期		0.00		60.00	60.00
2023年12月期		0.00			
2023年12月期(予想)				32.50	32.50

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

当社は2023年1月1日付で普通株式1株につき2株の割合をもって株式分割を行っております。2022年12月期については、当該株式分割前の実際の配当金の額を記載しております。

### 3. 2023年12月期の業績予想(2023年1月1日～2023年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	8,200	16.8	2,200	38.7	2,300	35.3	1,750	49.9	455.77

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

## 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年12月期3Q	3,840,000 株	2022年12月期	3,840,000 株
期末自己株式数	2023年12月期3Q	336 株	2022年12月期	294 株
期中平均株式数(四半期累計)	2023年12月期3Q	3,839,676 株	2022年12月期3Q	3,839,706 株

(注) 当社は2023年1月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して「発行済株式数(普通株式)」を算定しております。

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手可能な情報に基づき作成したもので、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は今後の様々な要因によって大きく異なる可能性があります。なお、業績見通し等に関する事項はP.3「1.当四半期決算に関する定性的情報の(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期貸借対照表 .....	4
(2) 四半期損益計算書 .....	6
第3四半期累計期間 .....	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書 .....	7
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(会計方針の変更) .....	8
(追加情報) .....	8
(セグメント情報等) .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善など緩やかに回復しておりますが、世界的な物価上昇や金融引き締め等による海外景気の下振れが景気を下押しするリスクとなっており、依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような状況の中で、当社は「感動プロデュース企業へ」という経営ビジョンのもと「文化と笑顔の需要創造」をミッションに掲げ、紙・電子出版による書籍、コミック、雑誌の発行、「野いちご」等の小説サイトの運営、女性向けWEBサイト「オズモール」での情報発信や施設予約サービスの提供、イベント開催等とそれらを掛け合わせたPR・販促ソリューションの提供を軸として事業を運営してまいりました。

このような営業活動の結果、当第3四半期累計期間の売上高は60億53百万円（前年同期比23.5%増）、営業利益は16億86百万円（前年同期比54.4%増）、経常利益は17億65百万円（前年同期比48.2%増）、四半期純利益は13億16百万円（前年同期比78.9%増）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

#### <書籍コンテンツ事業>

書籍コンテンツ事業では、自社で運営する小説サイト「野いちご」「ベリーズカフェ」「ノベマ!」を起点に、独自のマーケティングにより恋愛小説から異世界ファンタジー、ライト文芸まで幅広いジャンルの作品を書籍・コミックとして発刊しております。

当第3四半期累計期間は、書籍・コミックの発刊点数の増加、マーケティングの徹底による読者ニーズに沿った商品展開、映像化等のIP展開やSNS等を活用した販促施策に注力してまいりました。書籍・コミックの売上高は、女性向けコミックレーベル「ベリーズコミックス」「noicomi」、男性向け異世界ファンタジーレーベル「グラストコミックス」、ライト文芸レーベル「スターツ出版文庫」が順調に売り上げを伸ばしたこと等により増加いたしました。個別のコンテンツでは、コミックと小説で展開しております『鬼の花嫁』、本年映画化される小説『あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。』等が業績に寄与しております。さらに、当第3四半期会計期間においては、単行本『すべての恋が終わるとしても』シリーズが、動画系SNSで話題になったことをきっかけに累計発行部数を20万部（2023年10月末現在：25万部）まで伸ばすヒット作となっております。

また、新たな取組みといたしまして、9月1日に大人の恋を描く電子コミックレーベル「Comic Lueur（コミックリュール）」を創刊しております。

このような営業活動の結果、書籍コンテンツ事業の売上高は38億54百万円（前年同期比28.5%増）、営業利益は18億75百万円（前年同期比38.6%増）となりました。

#### <メディアソリューション事業>

メディアソリューション事業では、オリジナルのマーケティング・モデルを創造するという戦略のもと、当社独自の基準で厳選したレストラン・ビューティサロン・ホテル等の施設予約サービスを提供する「オズのプレミアム予約」と、「オズモール」「オズマガジン」「メトロミニッツ」等の東京地域密着の自社メディアとSNSコミュニティ「東京女子部」等を活用したPR・販促ソリューションを展開してまいりました。

「オズのプレミアム予約」では、利用者満足度の高い施設の開拓と予約プランの開発やSEO等のユーザー集客施策の強化、クーポン施策等のCRM強化によるユーザー満足度の向上に注力してまいりました。当第3四半期累計期間は、前年同期と比較しますと新型コロナウイルス感染症の影響が緩和され、レストラン予約を中心に利用者数が改善したことにより売上高が増加し、コロナ禍前の2019年同四半期累計期間の売上高を上回る結果となりました。

PR・販促ソリューションでは、SNSコミュニティ「東京女子部」のブランド化や「オズマガジン」等の東京地域密着メディアを活用した商業施設向けの集客支援等に注力してまいりました。当第3四半期累計期間は、商業施設向けの集客支援の売り上げが伸長したこと等により前年同期と比較して売上高は微増となりました。

このような営業活動の結果、メディアソリューション事業の売上高は21億98百万円（前年同期比15.6%増）、営業損失は86百万円（前年同期は、営業損失1億77百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債、純資産の状況

(資産)

当第3四半期会計期間末の総資産は、前事業年度末と比べて9億56百万円増加し、95億10百万円となりました。

流動資産は、現金及び預金が8億32百万円、その他流動資産が38百万円増加した一方で、売掛金及び契約資産が1億10百万円減少したこと等により、前事業年度末に比べて7億96百万円増加し、83億65百万円となりました。

固定資産は、前事業年度末から1億59百万円増加し、11億45百万円となりました。

(負債)

当第3四半期会計期間末の負債は、前事業年度末と比べて3億38百万円減少し、18億25百万円となりました。流動負債は、未払法人税等が1億94百万円、預り金が1億45百万円減少したこと等により、前事業年度末と比べて3億51百万円減少し、16億87百万円となりました。

固定負債は、前事業年度末と比べて12百万円増加し、1億38百万円となりました。

(純資産)

当第3四半期会計期間末の純資産は、利益剰余金が四半期純利益の計上により13億16百万円増加した一方で、配当金の支払により1億15百万円減少したこと等により、前事業年度末に比べて12億94百万円増加し、76億84百万円となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当第3四半期累計期間における現金および現金同等物（以下「資金」という。）は、前事業年度末に比べ8億32百万円増加し、41億86百万円となりました。

当第3四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、法人税等の支払額6億61百万円、仕入債務の減少1億37百万円、未払消費税の減少70百万円、未払金の減少56百万円等による資金の使用の一方で、税引前四半期純利益17億65百万円、売上債権の減少1億10百万円等の資金の獲得により、10億12百万円の資金を獲得（前年同四半期は8億88百万円の資金を獲得）いたしました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、「オズモール」のシステム開発等の無形固定資産の取得等により、64百万円の資金を使用（前年同四半期は84百万円の資金を使用）いたしました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払等により、1億15百万円の資金を使用（前年同四半期は76百万円の資金を使用）いたしました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年12月期の通期業績予想につきましては、最近の業績動向を踏まえ、本日（2023年11月9日）業績予想を修正いたしました。詳細につきましては、本日公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年12月31日)	当第3四半期会計期間 (2023年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,353,902	4,186,171
売掛金及び契約資産	2,459,949	2,349,586
製品	95,803	97,142
仕掛品	50,375	42,396
返品資産	44,371	81,250
前払費用	21,765	28,263
関係会社預け金	1,500,000	1,500,000
その他	43,121	81,308
貸倒引当金	△944	△1,115
流動資産合計	7,568,345	8,365,004
固定資産		
有形固定資産		
建物附属設備(純額)	38,343	35,560
工具、器具及び備品(純額)	15,629	19,027
有形固定資産合計	53,972	54,588
無形固定資産		
商標権	499	383
ソフトウェア	139,580	128,142
ソフトウェア仮勘定	5,067	25,061
電話加入権	2,376	2,376
無形固定資産合計	147,523	155,963
投資その他の資産		
親会社株式	566,192	632,688
投資有価証券	101,818	169,855
差入保証金	86,764	85,014
前払年金費用	1,660	10,142
その他	27,784	36,955
投資その他の資産合計	784,220	934,657
固定資産合計	985,716	1,145,209
資産合計	8,554,061	9,510,213

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年12月31日)	当第3四半期会計期間 (2023年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	511,412	373,447
未払金	99,723	51,197
未払費用	37,292	54,718
未払法人税等	387,068	192,208
未払事業所税	4,230	3,353
未払消費税等	129,680	59,214
前受金	8,055	14,249
預り金	164,684	18,938
賞与引当金	47,500	124,000
返金負債	575,125	692,889
ポイント引当金	73,946	103,068
流動負債合計	2,038,719	1,687,286
固定負債		
繰延税金負債	67,833	76,700
役員退職慰労引当金	57,600	61,400
固定負債合計	125,433	138,100
負債合計	2,164,153	1,825,387
純資産の部		
株主資本		
資本金	540,875	540,875
資本剰余金	536,125	536,125
利益剰余金	4,896,235	6,097,973
自己株式	△350	△503
株主資本合計	5,972,885	7,174,469
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	417,022	510,356
評価・換算差額等合計	417,022	510,356
純資産合計	6,389,908	7,684,826
負債純資産合計	8,554,061	9,510,213

(2) 四半期損益計算書  
(第3四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年9月30日)	当第3四半期累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)
売上高	4,901,919	6,053,623
売上原価	2,440,569	2,761,073
売上総利益	2,461,349	3,292,549
販売費及び一般管理費	1,368,887	1,605,944
営業利益	1,092,462	1,686,605
営業外収益		
受取利息	5,624	5,632
受取配当金	86,848	67,819
雑収入	6,442	5,780
営業外収益合計	98,915	79,232
営業外費用		
為替差損	8	7
雑損失	22	33
営業外費用合計	30	40
経常利益	1,191,347	1,765,797
特別損失		
固定資産除却損	8,200	—
特別損失合計	8,200	—
税引前四半期純利益	1,183,147	1,765,797
法人税、住民税及び事業税	464,007	481,202
法人税等調整額	△16,953	△32,333
法人税等合計	447,053	448,868
四半期純利益	736,094	1,316,929



(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年9月30日)	当第3四半期累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純利益	1,183,147	1,765,797
減価償却費	62,417	51,868
固定資産除却損	8,200	—
貸倒引当金の増減額(△は減少)	300	170
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	3,200	3,800
賞与引当金の増減額(△は減少)	89,900	76,500
退職給付引当金の増減額(△は減少)	△13,378	—
返品債権特別勘定の増減額(△は減少)	△56,617	—
返品調整引当金の増減額(△は減少)	△303,887	—
返金負債の増減額(△は減少)	490,870	117,764
ポイント引当金の増減額(△は減少)	6,572	29,121
受取利息及び受取配当金	△92,472	△73,451
売上債権の増減額(△は増加)	△102,598	110,363
棚卸資産の増減額(△は増加)	△44,167	6,639
返品資産の増減額(△は増加)	△42,590	△36,878
その他の資産の増減額(△は増加)	△3,741	△54,036
仕入債務の増減額(△は減少)	△18,651	△137,964
未払金の増減額(△は減少)	△19,238	△56,874
未払消費税等の増減額(△は減少)	△20,036	△70,466
その他の負債の増減額(△は減少)	151,195	△123,002
その他	3,624	△8,234
小計	1,282,047	1,601,117
利息及び配当金の受取額	92,472	73,451
法人税等の支払額	△485,647	△661,948
営業活動によるキャッシュ・フロー	888,872	1,012,620
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
出資金の払込による支出	—	△8,140
有形固定資産の取得による支出	△42,711	△6,834
無形固定資産の取得による支出	△35,596	△44,703
保険積立金の積立による支出	△3,011	△3,705
その他	△2,888	△1,250
投資活動によるキャッシュ・フロー	△84,207	△64,634
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
配当金の支払額	△76,653	△115,564
自己株式の取得による支出	—	△153
財務活動によるキャッシュ・フロー	△76,653	△115,718
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	728,011	832,268
現金及び現金同等物の期首残高	2,288,534	3,353,902
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,016,545	4,186,171

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。なお、当第3四半期累計期間における財務諸表への影響はありません。

(追加情報)

(会計上の見積りに対する新型コロナウイルス感染症の影響について)

前事業年度の有価証券報告書の(追加情報)(会計上の見積りに対する新型コロナウイルス感染症の影響について)に記載した新型コロナウイルス感染症拡大の影響に関する仮定について重要な変更はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期累計期間(自 2022年1月1日 至 2022年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント		計	調整額(注1)	四半期損益 計算書計上額 (注2)
	書籍コンテンツ 事業	メディアソリューション事業			
売上高					
顧客との契約から 生じる収益	2,999,505	1,902,413	4,901,919	—	4,901,919
その他の収益	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	2,999,505	1,902,413	4,901,919	—	4,901,919
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	2,999,505	1,902,413	4,901,919	—	4,901,919
セグメント利益 又は損失(△)	1,353,953	△177,660	1,176,292	△83,829	1,092,462

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△83,829千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用になります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期累計期間(自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント		計	調整額(注1)	四半期損益 計算書計上額 (注2)
	書籍コンテンツ 事業	メディアソリューション事業			
売上高					
顧客との契約から 生じる収益	3,854,914	2,198,709	6,053,623	—	6,053,623
その他の収益	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	3,854,914	2,198,709	6,053,623	—	6,053,623
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	3,854,914	2,198,709	6,053,623	—	6,053,623
セグメント利益 又は損失(△)	1,875,987	△86,664	1,789,323	△102,717	1,686,605

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△102,717千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用になります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。